行ってきます！

きくかわ　けいこ
（しろやま会員）

今日は初めて一人で電車に乗ってお出かけだ。

小学生になって最初の夏休み。休みが始まって一週間。おじいちゃんが、「遊びにおいで」って電話をくれたんだ。一人で行くのは不安だったけど、おじいちゃんちでたっぷり遊べるのが嬉しくて、行く決心をしたのだ。

電車が大好きなケンちゃんは、いつもだと先頭車両の運転席の近くに行くんだ。でも、今日は少し緊張していて、入口のそばの四人掛けの席に座った。ケンちゃんの前におじさんが座った。黒いスーツを着てサングラスをかけている。どこを見ているのかわからない。でも、耳が時々ぴくぴく動くんだ。何者かな？斜め前に座っている高校生っぽいお兄さんは、周りのことなど目もくれず、スマホの画面を夢中で見ている。無表情なせいか、まるでロボットにしか見えない。

のどがからからに乾いていることに気づいたケンちゃんは窓際においたペットボトルをとった。すると、隣のおばさんが話しかけてきた。

「一人でどこへ行くの？すごいね」

おばさんはにこっと笑った。

「おじいちゃんちへ行きます」

「そう、おばさんはね、みさき駅まで行くの。あそこはね、新鮮でおいしい魚がたくさんとれるの。ぼくは行ったことある？」

「ええ、そこへ行くんです」

「じゃあ、一緒だ」

行き先が一緒だとわかったら、何だか気が楽になった。

思わず、おばさんの顔をじっと見てしまった。口元に小さなほくろが右がわに三つ、左がわにも三つ並んでいて、まるで猫のひげみたいに見えたんだ。それに、おじいちゃんちで飼っている猫『チヨ』に似ている気がした。

ケンちゃんはジュースを飲んだ。ペットボトルがちょっと汗をかいていた。それでもジュースはおいしかった。

「ぼく、みさき駅でおじいちゃんと待ち合わせしてるんだ」

「そう、じゃあ安心ね」

おばさんは、また、にこっと笑った。カバンからイカの形をしたスナック菓子を出して、

「食べる？どうぞ」

と進めてくれたが、知らない人から食べ物をもらったことのないケンちゃんは、

「いいです」

と断った。ケンちゃんはもう一ロジュースを飲んだ。

「あなたみたいな孫がいるの。でも、遠くに住んでいるからなかなか会えなくてね」

おばさんはお菓子を食べながら、ケンちゃんを見た。

「そうだ、今度行こうかな。お土産いっぱい持ってね。すっかり孫が恋しくなったわ」

おばさんはさっきより、もっといい笑顔になった。

「間もなく、終点のみさき、みさき。どなた様もお忘れ物のないように・・」

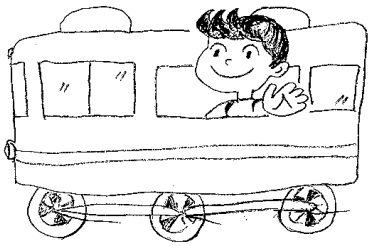
車掌さんのアナウンスだ。ケンちゃんは思った。早かったなあ。おばさんと仲良くなれたおかげかな。

おばさんの後に付いて通路に出ようとしたら、おじさんとお兄さんが言った。

「お先にどうぞ」

なんだか嬉しかった。改札口近くでおばさんが振り向いて手を振ってくれた。猫が顔を撫でるようなしぐさがかわいく見えた。ケンちゃんは元気よく手を振って別れた。

混雑する改札口の外でおじいちゃんを見つけたケンちゃんは、

「じいちゃん、じいちゃん」

と叫んで、駆け出した。